

## 第 2 回 第 三 者 評 価 委 員 会 会 議 録

### 1 日時等について

日 時	令和元年6月18日(月) 午前10時00分から
場 所	教育委員会室
開 会	午前10時00分
閉 会	午後0時09分
出席者	
評 価 委 員 長	尾 木 和 英
評 価 委 員	佐 藤 晴 雄
評 価 委 員	堀 内 一 男
教育委員会事務局次長	青 木 剛
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	宮 本 知 幸
学 務 課 長	西 村 克 己
指 導 室 長	横 山 圭 介
すみだ教育研究所長	石 原 恵 美
地域教育支援課長	石 岡 克 己
ひきふね図書館長	高 村 弘 晃
関係団体等からの出席者	
小 学 校 長 会 長	平 林 久 美 子
中 学 校 長 会 長	渋 谷 俊 昌
両国中学校PTA会長	廣 田 晃 久

### 2 議題

(1) 事業評価(すみだ教育指針「目標1～3」)について

### 3 会議の概要

**尾木評価委員長** おはようございます。令和元年度 第2回第三者評価委員会 を開会します。それでは、次第に沿って議事を進めさせていただきます。本日の議事は、「事業評

価 すみだ教育指針 目標 1 から 3 」について」です。それでは、資料について事務局から説明をお願いします。

**庶務課長** 本日は「すみだ教育指針 目標 1 から 3 」における事業についてご審議いただきます。それでは、資料 4 「教育委員会の施策・事業における内部点検・評価結果」をご覧ください。墨田区教育委員会では、平成 29 年度から令和 3 年度までを計画期間とする「すみだ教育指針」を策定しました。本指針では「5 つの目標」を定め、それぞれの「取組の方向」に基づきまして、推進計画等の進行管理を行いながら、目標の達成に向けて、学校・幼稚園・家庭・地域が連携して、各教育施策に取り組んでいるところであります。2 ページでは、「すみだ教育指針」の位置付けをあらわした体系図を示しております。3 ページは「目次」です。「すみだ教育指針」の施策体系ごとに、事業名や所管課等を記載しています。本日は、3 ページにある「目標 1 」から、4 ページの「目標 3 」に記載している施策・事業が対象となります。なお、「目標 4 」及び「目標 5 」については、次回、第 3 回目の会議にて、ご審議いただく予定です。6 ページは、平成 30 年度事業に対する内部評価表となります。表の構成としましては、左ページに、「平成 30 年度の事業の実施状況」及び「成果」を記載し、右ページには、「課題」と「令和元年度以降の取組」を記載しています。また、各項目について、昨年度の評価委員の皆様からご意見とさせていただいたものを枠囲みで記載しておりますので、審議の参考にさせていただければと思います。

**尾木委員長** それでは、予定に従って、目標 1 の事業から説明をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

( 次の事業について、主管課長が説明する。 )

目標 1 生きる力の基礎となる確かな学力の定着を目指します

取組の方向 1 確かな学力の定着と向上

主要施策 1 基礎・基本の定着

( 事業 1 ) 学力向上「新すみだプラン」推進事業

( 事業 2 ) 授業改善プラン推進事業

主要施策 2 学習意欲の向上

( 事業 1 ) 「学習意欲の向上」に関する共同研究

主要施策 3 発展的学習の展開

( 事業 1 ) 習熟度別指導

主要施策4 教員の資質・能力の向上

(事業1) 教職員研修事業

(事業2) 特力ある学校づくり等研究推進補助事業

(事業3) 総合教育センターの整備

主要施策5 ICTを活用した教育活動の推進

(事業1) ICTを活用した教育

主要施策6 幼保小中一貫教育の推進

(事業1) 幼保小中一貫教育推進事業(連携型)

(事業2) 幼児教育の充実

取組の方向2 グローバル化を見すえた国際理解教育の推進

主要施策1 英語力向上を図る取組の推進

(事業1) 小学校英語の教科化への対応

(事業2) NT(ネイティブティーチャー)による効果的な授業の展開

主要施策2 国際理解教育の推進

(事業1) 中学生海外派遣

**尾木評価委員長** 何かご質問はありますか。

**堀内評価委員** 学力の低位層であるD・E層が、中3の理科で「62.8%」といった数値が記載されていますが、具体的にどう解釈したらよいのでしょうか。

**すみだ教育研究所長** D・E層は学力低位層のことで、区学力調査の中で、試験を行っている業者が設定している目標値に対して、5ポイント以下である子どもたちの割合が全体の中で62.8%ということです。

**尾木評価委員長** 校長先生方は、これを一目見れば理解できるのですか。若干わかりにくいと思う要素はありますか。

**小学校長会会長** 十分理解して、各学校の改善計画に役立てています。

**尾木評価委員長** 中学3年を見ると、ほかの数字に比べて、理科だけ62%と高くなっています。これには何か課題があるのか、あるいは、何かの成果でよくなって数字が高いのか、この数字の表す意味はなんのでしょうか。

**すみだ教育研究所長** 理科について課題があるということにです。

**尾木評価委員長** どういう課題があるのですか。

**すみだ教育研究所長** 基礎的・基本的な知識について、まだまだ定着が図れていないと

いう課題があると考えています。

**尾木評価委員長** このことを踏まえて、学校では計画の中で改善するよう考えていただいているということですね。

**すみだ教育研究所長** はい。

**小学校長会会長** 理科の結果については、本校においても他教科に比べてよくありませんでした。例えば、実験や観察等の正しい方法や、太陽と影の向きや昆虫の体の仕組みといった、自然に恵まれた環境にあるならば遊びを通してわかるようなことが苦手のようなのでした。すみだ教育研究所からも、振り返り期間を各学校で設置するようという話もありましたので、学力調査の結果で苦手な部分を改善できるよう取り組んでまいりました。その結果、苦手だった理科が大幅に伸びてきていました。復習をしっかりとすることで成果が出ると、今回の結果で実感しました。

**尾木評価委員長** ほかにご意見はありますか。

**堀内評価委員** いろいろな研修が行われ、先生方が目標に向かって努力していることは理解しています。何年か前から理科と社会の成績が良くないことについて言われてきましたので、中学校では、その教科の先生を集め、研修会の内容や実施方法にまで踏み込まなくてはいけない数字なのではないかと思っていました。今回結果がよくなってきているのは、小学校だけなのか、あるいは中学校も含めてよくなってきているのか。他区の例ですが、理科の成績が非常に悪いため、少人数指導を行っています。実験を行う場合に、実験の狙いは何か、どういう手順で行うのか、その実験でどういうことがわかるのかを授業時間の最初に15分は説明する取組をしている学校もあります。そのような取組も検討したほうが良いかもしれないと思います。

**尾木評価委員長** ほかに何かご意見はありますか。

**佐藤評価委員** 成果について、小・中学校とも全国平均以上の観点数からも、学力は上昇傾向にあると書いてあり、課題の方ではD・E層の割合に減少が見られないということは、上位層と下位層に大分差が出てきていると解釈してよいですか。

**すみだ教育研究所長** 平成30年度時点で分析をしたところ、D層の幅が広がっています。D層の中でも上位層、中位層、下位層に分かれています。その中でも上位層が増えています。つまり、D層の質は上がっているということになりますので、極端に格差があるということではないと分析しています。

**佐藤評価委員** 成果について、表現を変えた方がわかりやすくなると思います。

**尾木評価委員長** 今回の学習指導要領の改訂について、これからはカリキュラムマネジメントが重要であるという意見が多いです。ところが、二、三百人ぐらいの先生方と一緒にする機会があり話を伺ったら、ある教科の学力が低いのはどうするかとか、修学旅行をどうしたらよいかということには関心があるものの、それを教育計画に結びつけて考える視点が、やや薄い印象を持ちました。現場の教員に対して、カリキュラムマネジメントの改善を通して学力向上を図りましょう、指導力の向上を図りましょうという投げかけはされているのでしょうか。

**指導室長** 指導室が実施している研修で行っています。今後、働き方改革も含めて、限られた時間の中で教育の効果を上げるという視点で考えると、各教科を関連づけ、適切に配置する必要があるという話はしています。ただ、カリキュラムマネジメントの具体的な方法についての研修まで行えているかという点、不十分な部分もあると思います。ご指摘のとおり、カリキュラムマネジメントの視点を持ち、新学習指導要領に対応した教育活動を行っていくということは、今後の研修の中で必ず取り上げていきます。

**尾木評価委員長** 「この点に重点を置いて頑張ってもらいたい」というメッセージを伝える機会が、それほど多くないような気がします。教育研究所ニュースは今も発行されていますか。

**すみだ教育研究所長** 今年度は基本的に毎月発行しています。

**尾木評価委員長** 校長先生方はご覧になってみて、効果的だと思われていますか。あるいは、この場を通じて、教育研究所ニュースで取り上げてもらいたいという要望はありますか。

**小学校長会会長** すみだ教育研究所には、私どものOBである元校長の方たちも配属されており、いろいろな学習ツールも開発していただいています。行政と学校を結ぶ情報源として、大変ありがたく思っています。教員にも電子データで提供して活用しています。

**尾木評価委員長** P T Aの立場でも、この機会に要望等がありましたら、積極的に発言願います。

**中学校P T A会長** 学習状況調査に全国平均とありますが、都の平均は出ていますか。

**すみだ教育研究所長** 区学力状況調査は区独自に行っているものであり、東京都が行うもの、国が行うものとは別ですので、都の平均値はありません。

**中学校P T A会長** 区が独自にやっているのに、全国平均と比較にできるということに

ついて、よくわからないので説明をお願いします。

**指導室長** テストを作成している業者があり、他の自治体等が取り組んでいるテストを全国的に集計したものを、全国平均としています。

**中学校PTA会長** 同じテストではないけれども、統計的にということですか。

**指導室長** はい。

**中学校PTA会長** 中学生海外派遣についてですが、前年度の評価委員意見にもありますが、実際に海外に行かなかった子どもにも効果が見込まれるような取組を低予算でできるのか、もう少し具体的に考えていただきたいと思っています。

**指導室長** 中学生海外派遣は2年生を対象に実施しておりますが、多額の経費が必要なため、派遣人数を増やすのは、今の段階では難しいと考えています。東京都は、昨年度に「東京グローバルゲートウェイ」という、すべて英語を使って半日から1日英語体験ができる施設を開設しました。この施設に、中学2年生全員が参加できるようにしています。海外派遣が終了した夏休み明け以降に参加時期を設定したことで、海外派遣で自信をつけてきた子どもたちが起爆剤になって、体験学習がより充実すると考えています。今後も、そういう機会をさらに増やす工夫はしなくてはならないと思っています。

**尾木評価委員長** 海外派遣の話が出ましたが、英語教育はについて何かご意見等ありますか。

**佐藤評価委員** ネイティブティーチャーの派遣は、小学校高学年で35時間、週1回ぐらい派遣しているということですので、非常に充実していると思います。ネイティブティーチャーはどこの国の方が多いのですか。

**指導室長** 委託により実施していることもあり、国籍はわかりません。出身はさまざまです。

**佐藤評価委員** 児童の様子をどう理解していますか。

**指導室長** 子どもたちはネイティブティーチャーとの授業を非常に楽しんでくれています。小学校段階からそういう取組を進めてきましたので、すみだ教育研究所で行っている学力調査でも、英語の意欲に関しては、全国より比較的高めに出ています。さらに効果を検証し、ヒアリング、スピーキングについて成果があるという結果になればよいと思っています。今後、小学校段階でも教科化されますので、学習内容の定着状況とネイティブティーチャーとの関係をしっかり分析していきたいと考えています。

**佐藤評価委員** 他区の学校ですが、ネイティブティーチャーの授業は楽しんでいる一方

で、担任の授業はちょっと反応が良くないという話も聞きます。

**小学校長会会長** 最近、若手教員の増加が比較的マイナス要因として捉えられていると思います。しかし、20代の若手教諭は、既に小学生のときに英語活動を行っていますので、英語の授業をすることに抵抗がありません。

**指導室長** 英語の授業を指導していくことへの抵抗感は、以前ほどはありません。しかしながら、今後教科化され、発音等、英語を専門に学んでいない教員から学んだ子どもが評価されていくことを考えると、やはりしっかりと補助的な取組をしていかなければなりません。教員、指導員は、楽しい活動を一緒に行うという段階まではきていると考えています。

**堀内評価委員** 若手の教員が入ってきて、抵抗感がなくなったと聞いて、ほっとしました。確かにそういう面もありますね。私にとって今回で4回目の評価委員会ですが、年々子どもたちの学力が向上しているという話を伺って、うれしく思います。同時に、ICTの取組や、研修・授業改善プランに対する教育委員会の細かく具体的な取組が積み重ねられ、その成果を分析され、成果が着実にあらわれてきていると感じます。そういう意味で、区としての全体的な取組については、必要なところに予算を充て、皆さんの努力を見ることができて、大変うれしく思います。ただ、理科と社会の結果はどうしてなのか。これからしなくてはならないのは、基本的な知識・技能をしっかりと身につけた上で、子どもたちに考えさせる授業をしていくことです。墨田区の学校をいくつか見学させていただきました。例えば算数の少人数指導で、本当にわからない子どもたちに理解させるための、習熟度の違いを意識した授業はあまりないように見受けられました。学習の狙いは同じレベルにしなくてはいけないという学校の立場があることはわかりませんが、わからない子どもにはもう少しやさしい教え方をしてもよいのではないのでしょうか。少人数指導のあり方について、墨田区独自のイメージを作ってもよいのではないかと思います。

**指導室長** 習熟度別少人数指導については、習熟度の低い子どもに対して、習熟度の高い子どもたちよりも授業時間を多くするといったことはできません。あくまで決められた指導時間の中で、その単元の目標達成を目指します。そうすると、理解が深まりやすいように工夫するとともに、より進んでいる子どもたちには、反復や発展的な学習を取り入れ、高い理解ができるようにしていくことになると考えています。指導室が毎年、習熟度別少人数の指導や授業視察を行っており、学校サポート訪問等でも習熟度の算

数・数学の授業は必ず見ておりますが、よく考えて取り組んでいる学校もあります。ただ、習熟度の違う3つのクラスすべてを見ないと、習熟度の差がわからないという指摘はその通りです。理解が遅い子どもたち一人ひとりに先生が丁寧に対応しているというレベルでしかないところもあります。そういうところについては、繰り返し指導してもらおうとともに、日常的に校長の授業観察等を通して指導計画の確認をしてもらおうよう、働きかけていきます。

**尾木評価委員長** 英語活動については、幼稚園での英語活動があり、小学校の英語活動があり、それが教科化の指導になり、中学校の英語指導と英語活動と、内容が幅広く変わっていきます。そこで、幼保小中一貫教育推進授業をもっと大事にして、例えば、「小学校ではこのように取り組んで成果が上がった」、「中学校ではこうして成果が上がった」など、交流を深めていくことが、これからは重要だと思います。特に、各校種間の指導内容や指導方法に関する相互理解をさらに進めることが重要です。

それでは、目標2に移りたいと思います。

(次の事業について、主管課長が説明する。)

目標2 一人ひとりの子どもに応じた指導により、豊かな人間性と健やかな体を育てます

取組の方向1 豊かな人間性と体力向上への取組の推進

主要施策1 人権教育及び道徳教育の推進

(事業1) 人権教育の推進

(事業2) 道徳の教科化への対応

主要施策2 いじめ・不登校への対策強化

(事業1) いじめの問題への対応

(事業2) 不登校問題への対応

(事業3) SNS等の適切な使い方の啓発

主要施策3 体力向上への取組の推進

(事業1) 体力向上推進事業

主要施策4 食育の推進

(事業1) 食育推進事業

取組の方向2 個別の課題に応じた適切な指導の推進

主要施策1 特別支援教育の充実

(事業1) 特別支援教育推進事業

(事業2) 特別支援教室の整備

主要施策2 帰国・外国人児童・生徒への対応

(事業1) 帰国・外国人児童・生徒への対応

主要施策3 教育に関する相談・支援

(事業1) 教育相談推進事業

(事業2) スクールサポートセンター

主要施策4 総合教育センターの整備

(事業1) 総合教育センターの整備(再掲)

**尾木評価委員長** 目標2の内容は、いじめや不登校、特別支援教育といった、今の学校教育が直面している非常に重い課題の内容が含まれております。はじめに、校長先生方から、今の説明に関して、ご意見や要望等がありますか。

**小学校長会会長** どれも大変重い課題だと思います。やはり、一つ一つ組織で対応していく必要がありますし、保護者への説明も重要です。普段から、いじめ防止対策の基本方針を説明しています。また、たまたま本校のPTA会長が弁護士の方で、いじめの訴訟等も扱っており、そのような事態になる前に、大人としてできることは何なのか、保護者とともに考えていく勉強会も行われています。不登校対策については、二日続けて休んだら保護者に様子を聞いて、早期発見・未然予防に努めています。また、毎日の授業を楽しくして、達成感のある学校生活を作り上げるよう取り組んでいます。次に、いじめ問題の対応についてですが、解消した割合63%という数値についてです。毎月の報告書には、「継続指導」の欄と「解消」の欄がありますが、安易に「解消」の方には丸がつけられません。解消の方向に向いていても、引き続き指導していくため、「継続指導」の欄に丸を付けることが多いです。同じ状況のまま、いじめが続いていることを表す数値ではありませんので、補足させていただきました。

**尾木評価委員長** 中学校ではどうでしょうか。

**中学校長会会長** 本校の対応についてですが、今年度は既に巡回指導員に3日間来ていただき、さまざまなご助言をいただいています。不登校生徒の状況が非常に多様化・複雑化していますので、墨田中で校内ステップ学級という体制を研究しています。教員の研修ももちろんしていきますが、居場所をつくるためのサポートがあるとよいと感じています。教室には入れなくても、校内の別の場所で学習して、自分の将来を考える生徒

が出てくれば、不登校生徒の減少につながります。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの役割も、以前に比べて非常に大きくなってきています。生徒だけではなく、保護者に対しての助言にも活用していけるよう、日数を少しでも増やせればと思います。

**尾木評価委員長** P T Aの立場からも、ご発言はありますか。

**中学校 P T A 会長** いじめ問題と不登校はそれぞれが密接に絡み合っていると感じます。特別支援学級でも、手厚いサポートをしていただいております、スクールカウンセラーの方々もかなり活動されていると感じます。それゆえに、いじめや不登校には課題が多いのだと思います。先日起きた川崎の痛ましい事件も、ひきこもりの問題が絡んでいるという話もあります。不登校やひきこもりの問題は、学校や先生に押しつけるのではなく、保護者もきちんとした理解のもとで取り組まなくてはいけないと思います。また、学校だけでなく区全体で考えていく必要があると思います。第 1 回目の第三者評価委員会で取り上げられていた「放課後の過ごし方」にも関係しますが、地域ボランティアの方々の協力も得ながら、みんなで明るくわいわいやっていると、それに引き寄せられていくこともあると思います。ただ勉強ができればよしとするのではなく、道徳観の指導も含め、さらに取り組んでいただきたいと思います。

**佐藤評価委員** 道徳について、本区での評価は学期ごとですか。学校現場では、道徳の評価が一番大変なので、年に 1 回にしてほしいという声もあるようです。評価については、可能なところは簡略化できるとよいかもしれません。次に、いじめに関してです。いじめは「行為」ではなく「意識」です。本来は「意識」が先あって、物を隠す、暴力を振るう、仲間外れにする、とった行為に表れるのに、はじめから「いじめ = 行為」のように見られてしまっていて、それゆえに見逃されてしまうケースがあるのだと思います。大津の事件も、最初はけんかだと思って止めなかったようです。もちろんけんかでも止めなくてはいいませんが、いずれにせよ、いじめは「意識」であり、見えないところにあるので、先生方も見逃してしまうのではないかと思います。本来は「行為」を禁止する方が望ましいと思いますが、国がいじめ防止対策推進法で「いじめを行ってはならない」という表現をしているので、「意識」なのか「行為」なのか曖昧になってしまうと以前から感じています。いじめであろうとなかろうと、人に迷惑かけるような行為はしないという決まりが必要だろうと思います。また、「食育」という言い方も変です。国は「食育」と言っていますが、家庭科教員の中では今は「食教育」という言い方しているようです。「教」の字

が入っていないことで、食べさせて太らせているようなイメージを持ってしまいます。そんなところで、いろんな見方をすると解決策も出てきやすいのかと思いました。

**尾木評価委員長** 堀内委員、何かありますか。

**堀内評価委員** 不登校の子どもの数が少しずつ増えている傾向が見られるということについて、非常に関心があります。先生方はどう対策すべきか考え、いろいろ工夫しています。その中で作られた自宅学級や特別部屋を見学しましたが、互いに仲間意識を持ち、表情が豊かで明るい雰囲気を感じることができて驚きました。どういう環境に置くのかも、大事なことだと思いました。話を聞いてみると、墨田中の不登校の子どもたちは、小学校から不登校だったということでした。また、不登校の子どもについての考え方に、小学校と中学校で多少食い違いがあるようです。なぜ、小学校の5～6年生の頃から、進学予定の中学校と情報交換をしていなかったのか、気になります。小学校も中学校も、同じ立場で理解した上で何とかしようと思わず、お互いに断層ができていないか、少し心配です。ただ、何かをすればすぐ不登校が解決するような単純な問題ではないことは理解していますので、少しずつ、学校に来やすくなる工夫をしてほしいと思っています。次に、外国人の子どもたちについてです。今後、外国人労働者の雇用が拡充される流れに伴い、さらに多くの国の人たちが日本にやってくるのではないかと思います。墨田区としても、取り組むべき大きな課題になってくると思いますので、墨田区で勉強してよかったという外国の子どもたちが増えるような取組を今から考えていただきたいと思っています。次に、子どもの体力の問題です。長距離走が苦手だから、何々の種目が苦手だからということを中心にするやり方ももちろんあると思いますが、まずは授業の中で、子どもたちが動き回る時間をいかにして作るかだと思います。学年によっても違うと思いますが、小学校の20分休み時間で、担任の先生と一緒に、子どもたちと一緒にグラウンドを走り回るようなことが、体力づくりの基本になっていくのではないかと思います。

**尾木評価委員長** 情報提供も兼ねて申し上げます。かつて、ほかの都道府県で、重大な不登校の調査委員会に関わったことがあります。その調査委員会は中学生が対象でしたが、私が関わったところは共通して、小学生時代のことを引きずっていました。例えばいじめについて、問題解消の割合が出ていましたが、行為としては解消しますが、同じ子どもたちが同じ学校に通い続けるわけですから、人間関係はそのまま持続されます。小学校6年から中学校に入学するときに連絡会がありますが、成績や学級状況の情報交

換はされても、踏み込んだ人間関係の情報交換については、なかなかされていません。もしこのような情報共有ができていれば防げたかもしれないということが、その調査委員会で把握することができました。幼保小中の連携についても申し上げましたが、そういう面でも連携して、不登校やいじめの解消の取組ができればよいと思います。それでは、目標3に移らせていただきたいと思います。

(次の事業について、主管課長が説明する。)

目標3 学校(園)・家庭・地域が連携・協働して、子どもたちを育てます

取組の方向1 地域と連携・協働した取組の推進

主要施策1 地域の人材を活用した教育の推進

(事業1) すみだスクールサポートティーチャー活用事業(学力向上支援サポートセンター、一貫教育推進員、学生ボランティア)

(事業2) 学校支援ネットワーク事業

(事業3) 放課後子ども教室

(事業4) リーダー育成事業

主要施策2 安全(防災)教育の推進

(事業1) 防災教育の推進

取組の方向2 他機関との連携による学習指導・学習支援の推進

主要施策1 民間等と連携した教育活動の充実

主要施策2 図書館と連携した教育活動の充実

(事業1) 学校図書館の充実

(事業2) 学校と図書館の連携強化

取組の方向3 家庭の教育力向上への取組の推進

主要施策1 家庭を支援するための取組の推進

(事業1) 家庭と地域の教育力充実事業

主要施策2 学校と家庭が連携した教育活動の充実

(事業1) 小学校すたーとブック・中学校入学準備冊子の発行

(事業2) P T A 活動支援事業

**尾木評価委員長** ただいまの説明について、委員の皆様からご発言をお願いします。

**堀内評価委員** 学校と家庭と地域が一つになって、色々なことに取り組まなくてはいけない、と昔から言われています。様々な取組のもと、少しずつ進んでいると思います。

しかし、今後も考えなくてはいけないことですし、区によって状況に差があります。地域と一緒に何かに取り組むことが定着している区もありますし、学校が開かれておらず、地域の人が入っていけない状態の区もあります。私がお話したいことは、先日テレビでも取り上げられた、江戸川区のハザードマップについてです。水害が起こった場合、江戸川区にはだめだと書いてあります。では、墨田区はどうなのだろうと思い、防災課でもらってきました。同じように、ここにはだめと書いてあります。何が言いたいかというと、各学校は熱心に防災訓練をしていますが、水害に対する訓練はやったことがない学校もあるのです。また、防災課が家庭へ配っているハザードマップを学校で取り上げたことはないそうです。なかには、見たこともないと言う先生もいます。江戸川区では、社会科の集まりがあったので、社会科の先生にハザードマップを配り、この範囲は全部水没し、学校も影響を受けるという話をしました。他の課で作成したもので、利用できるものは学校も上手に活用しなくてはならないと思います。

**尾木評価委員長** 今の防災教育や、児童・生徒の事故についても、主管課だけではなく、教育委員会全体で総合的に見直していただきたいと思います。私は墨田区の住民ですから、子どもたちがまちを歩く際の安全対策について見ています。細心の注意を払って対応されていますが、それでも、思いがけない事態が起こったら対応できないという場面も結構目に入ります。例えば、電車に乗るときに、子どもたちがばらばらになってしまうと、先生の目は届きません。先生とは別の車両に乗り込んだ子どもに何か危険があったときにどうするのか。報道されるような大事故が起きるのは、大体が想定外のことが起きたときです。ですから、教育委員会全体で、再度安全に対する対応について、ご考慮いただければと思います。

**庶務課長** 子どもの安全・安心について、庶務課では交通安全指導員を配置しています。また、土木管理課交通安全担当、学校、警察と連携しながら、合同で見回りや点検をしています。現在も庁内全体で連携を強化すべく、話し合っています。

**指導室長** 防災課と連携して、防災課から地域の町会に働きかける取組も進めています。水害のハザードマップに関してですが、「マイ・タイムライン」という、大規模水害発生時にそれぞれの家庭に避難するための計画をつくりましょうというキットが、今月中に全小・中学生に配られることになっています。ただ、墨田区は全てが区外避難を想定せざるを得ないため、防災課としても、学校でどのような避難訓練計画を定めてもらうか検討しているところです。

**尾木評価委員長** 佐藤委員、何かありますか。

**佐藤評価委員** 24ページのすみだチャレンジ教室の「放課後」コースは、テストの得点の伸びが小さいとありますが、伸びてはいるわけですね。今後も続けていただきたいと思います。場合によっては、実施日をもう少し増やすといったことが課題になるのかと思います。次に、学校図書館の読み聞かせボランティアの養成についてです。全国的に、読み聞かせボランティアの方同士は、余り仲が良くない状況があるようです。私の地元の市でも、一つの養成講座に、いろんなタイプの読み聞かせボランティアの方を入れることは難しいようです。そうすると、新陳代謝が余りよくないため、養成がいきづまってしまうようです。そういう点も配慮していただくことが重要であり、課題だと思えます。最後に、30ページの「親子で楽しむSTEM教室」についてです。男性の保護者の参加が多いですね。家でできないことをやってもらうという、非常に良い取組だと思えます。

**尾木評価委員長** ほかになにかありますか。

**堀内評価委員** 学校図書館における児童・生徒の一人当たりの年間貸出冊数が、小学校と中学校で大きく違います。中学校は部活がありますので当然ではありますが、部活に入っていない子どもたちに対して、本を読むスペースを学校はあまり作っていません。放課後の居場所としての図書館づくりを進めれば、もっと増えるのではないかと思います。

**指導室長** 中学校図書館における児童・生徒の一人当たりの年間貸出冊数の平均は2.3冊ですが、本を借りない子どもたちもいれば、年間10冊ぐらい借りている子どもたちもいて、貸出冊数の平均だけでは単純に比べられない部分もあります。部活動に参加せずに、図書館利用ができる子どもたちが年間何冊を借りているかといった分析等はしていかなければならないと思います。また、小学校の平均と中学校の平均を表にして比べると、中学校になって急に減って見えますが、小学校は絵本を借りる児童も多く、文字量・文章量が多くなった中学校と単純に比較するのは、なかなか難しいです。小学校高学年の冊数を真ん中に挟むと、段階的に減ります。もちろん目標としては中学校でもさらに貸出冊数を増やしていく必要がありますので、さらに検証した上で、有効な手段を考えていきます。

**尾木評価委員長** 以上で、本日予定されていた議事は終了しました。事務局から連絡事項などありますか。

**庶務課長** 次回の会議日程の確認をお願いします。次回の第3回目は最終回となりまして、7月8日(月)の午前10時からの開会を予定しております。次回もまた、オブザーバーの方のご参加をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願いします。なお、現段階で、ご都合がはっきりしていない方がおりましたら、後日、事務局までご連絡をお願いします。

**尾木評価委員長** 以上で、第2回 第三者評価委員会を閉会します。